



伊久美夏まつりの東農大「大根踊り」



静岡農芸品フェアを手伝う東農大生



菌打ちシイタケを運ぶ東農大生



茶道部のお茶会(杉風庵)に招かれた川根小学校の児童たち



農業経営 石神文雄さん(伊久美)

合宿で気付かされる地域の魅力

毎回「食事が口に合うだろうか」「おじさん・おばさん」

さんが相手で大丈夫だろうか」と不安になります。が、われわれが気づいてもらう方が多いです。それに、みんな素直で農作業も積極的にやってくれます。

夕食に山菜のてんぷらを出したとき「東京では高くて注文できないです。見た目も綺麗だし、すごくおいしいです」と心から喜んでくれました。ここでは当たり前前でも、都会の子には珍しいことなんです。伊久美の良いところ」に気付くことができるのも、合宿やファームステイの良さだと実感しています。それと、学生がいるだけで伊久美が元気になります。

同じ子が来てくれたり、感謝の言葉をいただけたりすると、うれしいです。皆さんには、これからも続けて合宿に来て欲しいと思います。これは、伊久美に住む全ての人の願いです。

ふれあいが地域に元気を与える

若者と地域住民の協働

市内では、これまで合唱部や吹奏楽部、農業実習などの文化合宿を受け入れました。文化合宿は、地域と触れ合う機会が多く、住民との結びつきも強くなり、継続的に合宿に訪れる傾向にあります。

例えば、東京農業大学の伊久美合宿では、農産物加工体験施設「やまゆり」で毎年開催される夏まつりや旬の市など、今では学生と地域住民が、協働で行っています。

地域の特色を生かした合宿

今年度は、お茶の産地としての情報発信と茶業振興のため、茶道部の合宿誘致に取り組みしました。大正大学茶道部は川根小学校の児童を、玉川大学茶道部は川根地域の住民を、川根地区にある茶室「杉風庵」に招待し、お茶会を開いてくれました。

田舎に元気になる合宿

田舎は、都会に住む若者にとって魅力的です。彼らは、合宿で生き生きとしていて、地域に元気を与えます。市では、共に元気になる文化合宿を今後積極的に誘致していきます。



川根町温泉企画予約事業 主任 植田佳枝さん

共に過ごすほどに分かり合える

茶道部の合宿は夏の暑い時期でしたので、学生たちには、川根温泉で体をゆつくり休めてもらいたいと思っていました。

杉風庵のお茶会には、私も呼んでいただきました。真剣にお茶を点ててくれるので、地域の人たちも川根小学校の子どもたちも、暑さを忘れて真剣にお茶をいただきました。

おせっかいな川根のおばちゃんには、学生たちが自分の子のようにかわいくて、一緒に買い物に行ったり、食事も「食べられないものがないか」「量が足りているか」と気になったり、体調が悪い子に、おかゆをあげたりもしました。

学生たちは「ふれあいの泉」大浴場で、地域の人たちとの会話を楽しんでいました。帰る際に「今度は、プライベートでも来たい」と言ってくれて、とてもうれしかったです。

私が伊久美合宿に参加した理由は、田舎への憧れからです。

私が育った場所は関東の有名な観光地でせわしくなく、父親の実家も東京。連休などで友達が地方に帰省して、のんびり過ごす生活がうらやましかったです。

昨年8月に初めて参加した合宿で、私は伊久美が好きになりました。綺麗な景色やおいしい食事、そして伊久美に住んでいる皆さんの優しい人柄に、心をつかまれました。今では、私も伊久美の活性化のために、地域の人の役に立ちたいと考えています。

私は、幼い頃に祖父の家庭菜園を手伝ったことがきっかけで、農業大学に入学しました。祖父を理解したい気持ちと、農業の楽しさや難しさを学んでみたかったからです。こんな私

若者と伊久美を結ぶ 架け橋になりたい



東京農業大学世界学生フォーラム 伊久美合宿リーダー 松岡由実さん(1年)

ですので、いつもワクワクしながら農作業などを体験しています。

伊久美での毎日が、新鮮で楽しくてたまらないんです。今は、先輩たちが伊久美で築いてきた歴史や思いを守りたいという気持ちでいっぱいなんです。

最近では、農業に興味のある若者が増えてきました。農村地域の活性化のために、このパワーを使わない手はないですよ。伊久美に移り住むことは難しいとしても、若者が気軽に訪れる地域になれば、うれしいです。

私たちが、合宿で農業を学んだり、お祭りに参加したりすることが、きっと、若者と伊久美を結ぶ架け橋になると信じています。それが、私の夢であり、伊久美への恩返しです。